

# 船舶事故調査報告書

令和4年1月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突
発生日時	令和3年8月4日 19時40分ごろ
発生場所	千葉県銚子市銚子大橋東方沖（利根川） 銚子港第2漁船だまり河堤灯台から真方位336° 250m付近 （概位 北緯35° 44.3′ 東経140° 50.4′）
事故の概要	漁船第二宗栄丸 <sup>（そうえい）</sup> は、東進中、プレジャーボート <sup>（シーマックス）</sup> SEAMAXは、北進中、両船が衝突した。 第二宗栄丸は、船首部船底外板に擦過傷を生じ、また、SEAMAXは、左舷船首部外板の亀裂等を生じた。
事故調査の経過	令和3年8月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第二宗栄丸、2.0トン CB3-60658（漁船登録番号）、個人所有 6.71m (Lr) × 2.07m × 0.66m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数45、昭和63年9月 B プレジャーボート SEAMAX、1.1トン 232-29172千葉、個人所有 5.58m (Lr) × 1.98m × 0.84m、FRP ガソリン機関、44.1kW、平成9年8月
乗組員等に関する情報	A 船長A 63歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成3年11月8日 免許証交付日 平成28年9月20日 （令和3年11月7日まで有効） B 船長B 27歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成30年9月6日 免許証交付日 平成30年9月6日 （令和5年9月5日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	A 船首部船底外板に擦過傷

	B 左舷船首部外板に亀裂、左舷船首部デッキに破損、バウレールに曲損
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期</p> <p>日没時刻：18時39分ごろ</p> <p>月出時刻：4日13時09分ごろ、月没時刻：5日04時14分ごろ、月齢：24.9</p>
事故の経過	<p>A船は、船長A及び甲板員1人（以下「甲板員A」という。）が乗り組み、沖に仕掛けた刺し網の回収を行う目的で、令和3年8月4日19時30分ごろ銚子市銚子港沖に向け、法定灯火を表示して同市本城町所在の船溜まり（以下「本件船溜まり」という。）を出発した。</p> <p>A船は、利根川に出てすぐ針路を085°として銚子ポートタワーの明かりに向けて航行した。</p> <p>A船は、19時35分ごろ、銚子大橋橋梁灯（R1灯）の下を通過し、約10ノットの対地速力で航行を続けた。</p> <p>船長Aは、19時38分ごろ、茨城県の左岸には街灯がなく、前方を見た時に周囲が真っ暗だったので、前路に他船はいないと思い、後部デッキにいた甲板員Aが落水しないように操舵室後部のLEDライトを点けて航行を続けていたところ、19時40分ごろ、何かに衝突した衝撃があり、A船の船首部とB船の左舷船首部とが衝突し、A船が黄色い回転灯を点灯していたB船の上に乗揚げたことを認め、すぐに機関を中立運転とした。</p> <p>船長Aは、機関を後進運転としてB船から離れたところ、B船の同乗者2人のうちの1人（以下「同乗者B<sub>1</sub>」という。）が海中に半身浸かった状態でA船の右舷船首部に掴まっているのを認め、甲板員Aと共に同乗者B<sub>1</sub>をA船に引き揚げた後、B船が利根川の上流方向に航行して行くのを見た。</p> <p>船長Aは、同乗者B<sub>1</sub>にけががなく、同乗者B<sub>1</sub>が船長Bに本事故の状況を携帯電話で連絡を取っているところを見た。</p> <p>船長Aは、付近で漂泊していた漁船の船長が、本事故の発生を海上保安庁に通報し、同漁船を操船してA船に近づいて来たので、同乗者B<sub>1</sub>を本件船溜まりまで搬送することを依頼して刺し網の回収に向かい、同網を回収した後、本件船溜まりに帰航した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者B<sub>1</sub>及び友人1人（以下「同乗者B<sub>2</sub>」という。）を乗せ、法定灯火を表示し、釣りをを行う目的で、令和3年8月4日18時00分ごろ本件船溜まりを出発し、利根川河口付近に到着した。</p> <p>船長Bは、釣りのポイントを移動していたところ、左舷方約1,000m付近に銚子大橋方面から接近するA船を認めた。</p> <p>船長Bは、A船が回転灯を点けているB船を避けてくれると思い、</p>

	<p>機関を中立運転として前進惰力で北進しながら、前方の同川左岸の堤防までの距離、河口側の様子及び魚群探知機の魚影を見ることに集中していた。</p> <p>同乗者B<sub>2</sub>は、船首部デッキに立ち、また、同乗者B<sub>1</sub>は、中央部デッキで釣り竿を持って仕掛けを投げる準備をしていたところ、同乗者B<sub>2</sub>がB船の至近に接近するA船の灯火を認めて危ないと叫んだ。</p> <p>船長Bは、同乗者B<sub>2</sub>の声が聞こえ、左舷方を見たところ、A船が約25～50mに接近し、前方には堤防があったので前には逃げられないと思い、機関を全速力後進として回避しようとしたものの、B船とA船とが衝突した。</p> <p>同乗者B<sub>1</sub>及び同乗者B<sub>2</sub>は、B船に乗り揚げたA船をB船から降ろしてA船を押したところ、A船がB船から離れ始め、A船に掴まっていた同乗者B<sub>1</sub>が海中に引っ張られて落水した。</p> <p>船長Bは、同乗者B<sub>1</sub>がA船に引き揚げられたことを確認し、同乗者B<sub>1</sub>に異状がなさそうだったので、携帯電話で連絡が取れると判断し、B船の甲板上に海水が流入して浸水していたので、できる限り早期に帰港することとし、本件船溜まりに戻った。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 A船、写真2 A船の損傷状況、写真3 B船の損傷状況(1)、写真4 B船の損傷状況(2) 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>A船にレーダーはなく、GPSプロッターが搭載されていたが、本事故当時、視界が良かったので、船長Aは目視のみで航行していた。</p> <p>船長Aは、B船の灯火が銚子市の街明かりに紛れていたため、衝突するまでB船に気付かなかったと本事故後に思った。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>A あり、B あり A なし、B なし A なし、B なし</p> <p>A船は、銚子大橋東方沖を利根川河口付近に向かって東進中、同河口の右岸付近に街明かりが多く見える状況下、船長Aが、前方に他船の灯火が見当たらず、前路に他船はいないと思い、目視によって同じ針路及び速力で航行を続けたことから、右舷方から前進惰力で北進していたB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、A船にレーダーはなく、また、B船の灯火が銚子市の街明かりに紛れていたことから、前方に他船の灯火が見当たらず、前路に他船はいないと思い、目視によって同じ針路及び速力で航行を続けたものと考えられる。</p> <p>B船は、銚子大橋東方沖を前進惰力で北進中、船長Bが、左舷方から接近するA船を認めた際、A船が回転灯を点けているB船を避けてくれると思い、魚群探知機及び河口側の様子等を見ることに注意を向</p>

	<p>けていたことから、至近に接近するまでA船に気付かず、機関を後進にかけたものの、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、銚子大橋東方沖において、A船が利根川河口付近に向かって東進中、同河口の右岸付近に街明かりが多く見える状況下、B船が前進惰力で北進中、船長Aが、前路に他船はいないと思い、目視によって同じ針路及び速力で航行を続け、また、船長Bが、A船が回転灯を点けているB船を避けてくれると思い、魚群探知機及び河口側の様子等を見ることに注意を向けていたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型船舶の船長は、夜間、街明かりがある水域では船舶の灯火が視認しにくい場所もあるので、他船がないと思うことなく、同灯火を見落とすことがないよう細心の注意を払って操船に当たり、必要に応じて減速等を行うなどして常時、周囲の見張りを適切に行うこと。</li> <li>・ 小型船舶の船長は、接近する他船を認めた場合、特定の作業に集中せず、同船の動静の監視を行い、常時、周囲の見張りを適切に行うこと。</li> <li>・ 小型船舶の船長は、夜間等に航行する場合、目視に加えてレーダー等の航海計器を備えて活用することが望ましい。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図

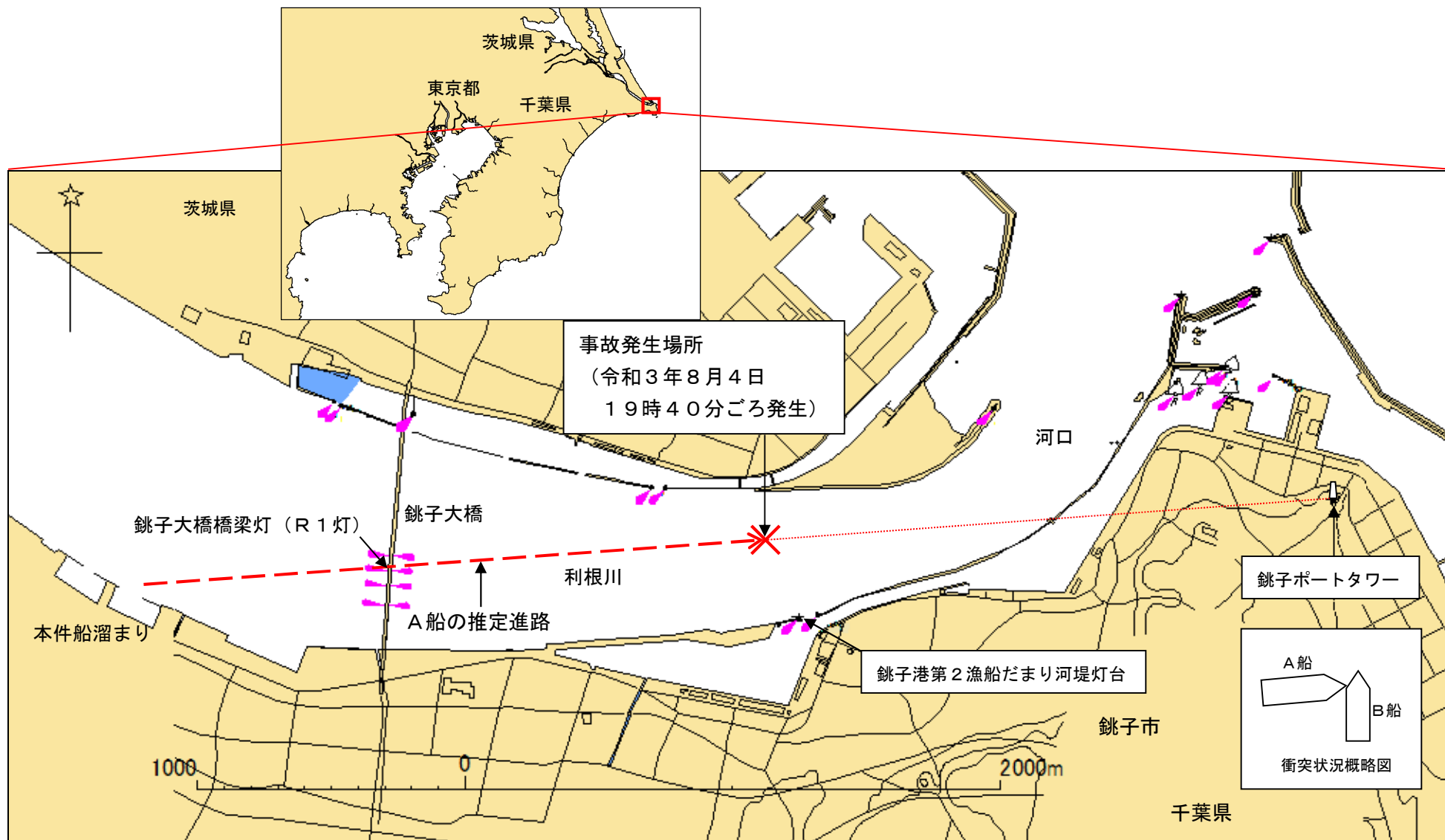


写真1 A船



写真2 A船の損傷状況

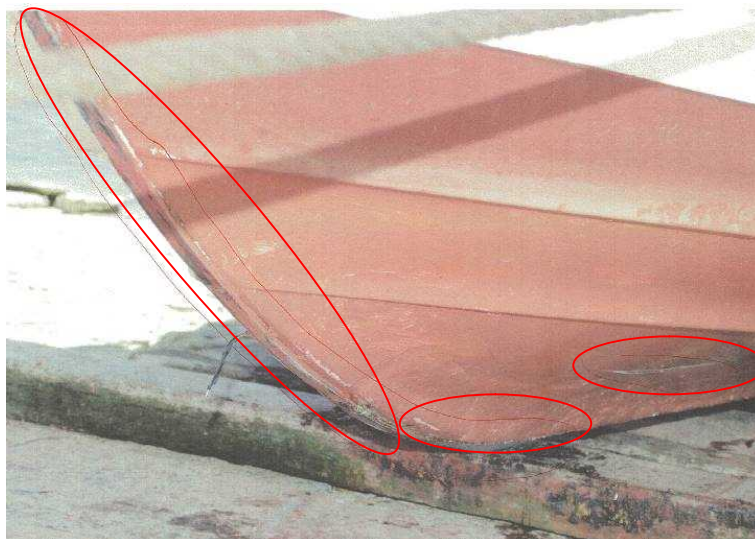


写真3 B船の損傷状況（1）



写真4 B船の損傷状況（2）

